

「二人目も先生に」

患者の声を示す寄り添う診療

○：日本で、しかも現代に
おいては比較的安全なものに
なってきた「出産」。しかし、
母子ともに「絶対に安全」と

いうことはなく、「産むとい
う行為に着目しがちですが、
それまでの胎児の生育や母体
の健康を含めて、リスクをと

もなう『お産』というものに
敬意を払いながら、医師とし
て専門的なサポートを徹底し
ていききたいです」と話します。

この「人」に聞く



橋本 誠司 医師

(はしもと せいじ)

ふれあい横浜ホスピタル

【産婦人科】

日本産科婦人科学会 産婦人科専門医

○：ふれあい横浜ホスピタルに
着任してから7年目と
なった今年、常勤医として毎
週月・土曜日午前中に外来診
療を担当し、そのほか病棟(入
院患者の)診察などを精力的
に行なっています。「分娩ま
での診察だけでなく、分娩後
の状態、その先のご様子など、
患者さまを一連の経過を通し
て見守っていただけることに意欲
を感じています」。妊娠して
から出産後の間もない時期ま
での「周産期」を主として、
母体や胎児に関わる診療や、
分娩を担当しています。

○：高校卒業後、入学した
のは東京学芸大教育学部心理
学科だった橋本医師。しかし
「医療系施設での研修で医学
に興味をもち、医学部のある
大学に再入学しました」。そ
こで熱心な産婦人科の教授と

出会い、「自分もあななりた
い」と強く感じました。「心
理学で母子に係る領域を扱っ
たこともあり、小児科と産婦
人科で揺れていたのですが、
その教授の姿を見て、
『産婦人科医になろう』と。
そのことはすぐよく覚えて
います」。慎重に言葉を選び、
思慮深く話す様子に、安心感
を抱きます。

○：モットーは「丁寧な診
療」。心理学で培った知識を
活かし、患者の表情や言葉な
どにも着目して、「もつと話
したい様子でしたら、ゆとり
をもって接しよう、などとそ
れぞれの患者さまに寄り添っ
た診察を心がけています」。
その診療スタイルから「二人
目も先生のいる病院で」との
患者も多く、「とても嬉しい
言葉ですね」と微笑みました。